

◆新実祥悟議員 それでは、議長に発言の許可をいただきましたので、通告の順に質問させていただきます。なお、本日、同じ案件で2名ほど質問者がいらっしゃいますが、少し変わった視点で質問させていただこうと思っておりますので、上から順次お願いしたとおり御答弁いただければと思っております。お願いします。

それでは、大きい1番、早期の新体育館建設について。

(1)新体育館建設の経緯について、これをお尋ねしようと思っておりますが、先ほど御案内があったように中日新聞に記事が載って、2年ほどこの建設の時期がおくれているのではないかというお話がありました。

そこで、アとしまして、これまでの経緯についてお尋ねしていきます。お願いします。

◎尾崎弘章教育委員会事務長 市の大型施設であります市民会館、市民体育センター、図書館について、御承知のように平成26年度に耐震診断を行っております。その結果、現体育館が特に悪い結果であること、そういった結果が判明いたしました。

現体育館は昭和43年に建設され、大型教育施設の中でも一番古く老朽化が進んでいるなど、早急に施設更新を考える必要があるということで建てかえに向けた検討を開始したところでございます。

そして、平成27年度には2,000名を対象に市民アンケートを実施し、850名の方から貴重な回答をいただいております。

平成28年度には一般公募を含む11名の方で構成する新体育館検討会議を設置し、建設地や体育館の規模、機能等について検討をしていただきました。特に建設地につきましてはさまざまな場所を検討していただき、最終的にポートレース蒲郡南東駐車場へ建設する案と、現体育センター敷地内に現体育館を使いながら新しい体育館を建てる案の2案を検討会議の結果として報告をいただいております。

以上です。

◆新実祥悟議員 それでは、イとして、平成29年度の事業予定について伺うわけですが、今年度、一般会計で予算をつけているのですが、そちらはどのようになっているのでしょうか。

◎尾崎弘章教育委員会事務長 本年度の予定という御質問でございますが、新体育館検討会議で示された2つの候補地について、詳細に比較検討するための調査を行うため、現在準備を進めているところでございます。比較するに当たりましては、体育館の競技場であるとか、その他の諸室、駐車場等の配置案を作成いたしまして、各案での利用のしやすさや工期、費用の概算額なども算出し、それらを比較検討することで場所選定を行ってまいりたいと考えております。

これはあくまで予定ですが、8月をめどに比較を完了できればと考えております。そ

して、その後、市として建設に最適と考える場所の選定を行ってまいりたいと考えております。

◆新実祥悟議員 では、次に(2)愛知県津波浸水想定について、お尋ねします。

今、御答弁いただいたように検討会議の中で、ポートレース蒲郡南東駐車場と落合川左岸の現体育センター敷地だということで、そういう発表があったわけですが、実際にはこの議会の中ではそれに加えて竹島ベイパークについてのお話も出ておりますので、この3点を少しお尋ねしていこうと思っております。

アとして浸水想定の内容、特にポートレース蒲郡南東駐車場、落合川左岸現体育センター敷地及び竹島ベイパークの状況について、お尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 本市におきましては、平成26年5月に愛知県が発表した愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果に基づいて防災対策を進めております。この被害予測調査結果では、過去に発生した宝永・安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震を重ね合わせた5地震参考モデルとあらゆる可能性を考慮し、千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低い最大想定モデルから構成されております。

この最大想定モデルにおける浸水予測では、ポートレース蒲郡南東駐車場及び落合川左岸現体育センターは浸水想定区域には含まれておりません。

竹島ベイパークに関しましては、西側部分に0.3メートル未満の浸水想定区域と、わずかではあります。海岸に近い箇所に1メートル未満の浸水想定区域もございます。

◆新実祥悟議員 この質問の仕方は少し技巧的だと思われるかもしれませんが、落合川左岸というのをなぜつけたかと言いますと、津波の場合は川を遡上するということがありますので、あえてこういう言葉をつけさせていただきました。ですが、公式の浸水想定でいくと、そういうこともないということで、これは安心したわけです。

イとして、公式見解の重みについてお尋ねしていくわけですが、一般的にうわさ話とか、そういったもので政策というのはつくられていくものではないと思っています。例えば、法律にしても、国が法律をしっかりとつくりまします。そうしたらそれをもとに県や市は条例をつくっていくというようなことがあると思っています。

今回、法律ではありませんが、浸水想定というのをまず平成23年の震災後に国が発表されて、それをもとに愛知県がどうなるかということを検討して、公表したわけです。県としての公式の見解なのです。ある意味、これは県も国もそうですが、大きな責任を持っているわけです。なぜかという、これをもとに各自治体はいろいろな災害避難ですとか、そういったことに対する対策、対応をとっていくわけですので、直接国民、県民、市民の生命とか安全にかかわる、そういった公式見解ですから重みがあると

思っているのです。

この件に関して、市としてはどのようにとらえているか、お尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果につきましては、東日本大震災を教訓といたしまして、これまでの地震被害予測調査を最新の知見に基づいて見直し、今後の防災・減災対策の効果的な推進に資することを目的に愛知県が公表しているものでございます。

本市におきましても、この調査結果を重く受けとめ、防災・減災対策の基軸としております。

◆新実祥悟議員 逆の言い方をしますと、この資料以外にほかに取り上げて参考にして、蒲郡市としてつくっていく計画というのはないというように思っているのです。公式の文書ですから。

ただ、この公式の文書以外にその他に公式の文書があるかどうかなのですが、ほかにももしあるとするなら、それをやはり参考にしなければいけないと思うのですが、そのほかにあるかどうかですが、その他の公式文書の有無について、お尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 先ほど答弁いたしました愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果は平成 26 年 5 月に愛知県防災局が公表したのになります。その後、平成 26 年 11 月に愛知県建設部が愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査検討委員会の検討結果をもとに、津波防災地域づくりに関する法律に基づいて津波浸水想定を公表しております。

こちらに関しましても、浸水状況につきましてはポートレース蒲郡南東駐車場及び落合川左岸現体育センターは浸水想定区域に含まれておらず、竹島ベイパークは西側部分に 0.3 メートル未満の浸水想定区域とわずかではございますが海岸に近い箇所に 1メートル未満の浸水想定区域がございます。

また、古いものでは、東海地震単独、東南海地震単独、東海・東南海地震2連動について浸水想定がございしますが、こちらのいずれの地震におきましては、御質問にありました3カ所につきまして全て浸水想定区域には含まれていませんでした。

◆新実祥悟議員 ほかにも出されているようですが、ただ県の建設部が視点を変えて河川管理ですとか、堤防の管理ですとか、そういったことをどうするかということで文書としてまとめたようですが、それでも同じであって、ポートレース蒲郡南東駐車場も落合川左岸の現体育センター敷地もオッキーだと。残念ながら竹島ベイパークについてはほんの少しだけかかるよということでありますので、この点については津波に

関しては大丈夫だと私は思いました。

また、高潮の件もありましたが、高潮も実際には市の所有の土地の中でどのように新体育館をつくっていくかという、そういう議論ですので、これについては先ほど御答弁にあったとおり受けとめていきたいなと思っております。

それでは、(3)として新体育館の規模と設備についてお尋ねするわけですが、アとして建築面積、収容人員、駐車場について。

それから、イとして、会議室、更衣室などの内部設備について、これは流れの中でまとめてお尋ねいたします。

◎尾崎弘章教育委員会事務長 詳細な内容については現時点では決まっておりません。ただ、これから建設候補地の比較検討を行っていく中で現在の体育館の使われ方、他市の体育館の規模などを参考にして、現時点で考えられるおおよその規模感であるとか機能というものをイメージした上で作業を進めていかなければならないと思っております。

そういった中で例えば現体育館の競技場、これはバレーボールコートが2面ありますが、これは他市の状況などを見ますと3面確保、それには足りないのですが、そういったものが必要になるかなということでもありますとか、逆に現在の体育館の競技場にステージがあるのですが、これはほとんど使用していません。ステージをなくせば、このバレーボールコート3面を確保しても現在の規模内で収めることができる。また、観客席につきましては、これまでの利用状況でありますとか、今後の大会誘致、他市の状況なども参考に決めることになるかなと思われまます。

続きまして会議室についてですが、現在、大小6室に加え和室がございますが、今後はこういった部屋を幾つも用意するのではなくて、間仕切りで部屋の大きさを変えられるようにしてスペースを有効に活用する方法など、こういった方法についても検討する必要があると考えております。

このように規模の適正化を図りつつ、トレーニング室であるとかサブアリーナなど、要望の多い設備、機能を充実させていかなければならないと思っております。

また、駐車場については現状の利用状況を見ますと、体育館に250台、武道館と合わせた場合では300台程度は確保したいと考えております。

より具体的な内容につきましては、場所が決まった後に策定する基本計画の中に盛り込んでいきたいと考えております。

◆新実祥悟議員 それでは、ウとして利便性の向上に対する配慮についてです。先ほどもユニバーサルデザインというようなお話もあったわけですが、その点も含めてどのようにお考えになっているか、お願いします。

◎尾崎弘章教育委員会事務長 新しい体育館をどこに建てた場合におきましても、利用者にとって使いやすい施設にすることが大切だと思っております。体育館を利用する方は、自動車で利用される方がこれは平成 27 年に実施したアンケートで最も多い状況ですが、その場合、駐車場から施設の入口へ、そして受付窓口に来ていただき、さらに利用する施設へと向かう動線が非常に重要になるかと考えております。また、受付で利用者の流れを一元管理する。このことが施設全体のセキュリティーの面でも大切になろうかと思っております。施設相互のレイアウトは非常に重要になってくるということです。

また、更衣室やシャワー室も現在の体育館では使いにくい位置にあるため、利用は余り多くありません。さらに、体育館は競技場を利用される方だけでなく、トレーニング室や会議室を利用される方、応援に来られる方などさまざまです。体育館に来た方が施設内でどのように移動するかをしっかりと考え、シンプルな動線、利用しやすい施設配備を考える必要があると思っております。

また、駐車場につきましても、大会開催時は大型バスも来られますから、そういった車両の駐車場もしっかりと確保できるようなレイアウトにしていかなければならないと考えております。

◆新実祥悟議員 ユニバーサルデザインについての御答弁がなかったのですが、結構です。

私の印象というか、これまで聞いてきた話の中でお話をさせていただきますと、例えば車いすのスポーツ、例えばバスケットボールとかあるのですが、そうした場合に、あの車いすは一般の車いすと違ってハの字にすごく広がっていて、通路とか、あるいは出入口というのは非常に大きくとる必要がある。例えばすれ違う場合を考えると、一般の通路よりも 1.5 倍とか 1.8 倍の広さが要るのですよという話を聞いたことがあるのです。アリーナの部分の広さは大体このぐらいですよというのがあると思うのですが、それ以外の部分で余裕を見てつくる必要があると思うのです。そういったときに自由度のあるところでそういう場所を選定していただくのが私は一番いいのかなと思っているのです。順番にまた質問させていただきます。

(4)といたしまして、新体育館を早期に建設することについてということで、まずお尋ねしたいのですが、アとして、ボートレース蒲郡南東駐車場、落合川左岸現体育センター敷地及び竹島ベイパークでの建設に係る費用と時間について、これをどのようにお考えになっているかお尋ねします。

◎尾崎弘章教育委員会事務長 ボートレース蒲郡南東駐車場と現体育センター敷地につきましても、これから詳細な部分についての調査を進めてまいります。一般的に現状の立地条件ではボートレース蒲郡南東駐車場の場合は建物は建っておりませ

んし、駐車場もボートレース場と共有できますから、建物を建てる際に障害になるものは少ないかと考えております。

また、現在の体育館も通常どおり使用しながら建設ができます。現体育センター敷地の場合は現体育館や武道館がございませう。そういったものの利用を続けながら新しい体育館を建てていくということで、レイアウトや工事のスケジュールなどやはり少し工夫をしながらやっていかなければならないと思っております。

また、現体育館で不便をおかけしている駐車場不足を解消するためには、限られた敷地ですので立体駐車場も必要になろうかと思ひます。そういったことを考えると、時間や費用は余分に現体育センター敷地のほうがかかるとか、必要になるかなと考へております。

また、竹島ベイパークの場合はどうかということでありませうが、市の諸計画のある場所でありませうので、まずその計画での位置づけの整理が必要になつてこようかと考へております。また、竹島ベイパークは現在、堤外地にございませうが、ここにもし海辺の施設とは関係ない公共施設を建てるということであれば、防潮堤を前出した上で建てることになるのかなと考へております。また、現在、非常に利用が多いグラウンドゴルフ場をどうするか。そういった問題もこの場合は発生してくると考へております。

そういったことから、費用や時間も多にかかるとか場所ではないかと考へ、また新体育館検討会議の意見も尊重し、ボートレース蒲郡南東駐車場と現体育センター敷地に絞って調査を進めていくことにしたものでございませう。

以上です。

◆新実祥悟議員 なぜこの質問をさせていただいたかということ、実際、市で公共施設マネジメントを今、検討していただいております。その中で次の施設が待っているということが一つあります。それと、少しでもお金は使わずにうまく資金の支出の平準化したいというようなお話もあった中で、やはりそのところはしっかりと検討しなければいけないではないかなと思ひております。そういう意味で一番可能性として私が思うのは、ボートレース蒲郡南東駐車場ではないのかなと思ひているわけです。

竹島ベイパークについては、今回取り上げさせていただいて、今もそういう御答弁、前にも柴田議員のときに御答弁があったわけですが、なかなか物理的には実際には私もできると思ひているわけですが、しかしながら軽微な変更でも計画の変更というのは3年とか5年とかかかると考へております。ラグーナの場合も実際3年もかかったと思ひます。あれも軽微な変更だったのです。そういったことと防潮堤の前出しですとか、いろいろなことをやる中で、まだあそこに水路が入っていますので、それをどうするか、そういったことまで検討すると非常にお金のかかる話ですし、時間もかかる話なのではないかなと思ひております。

ある意味、公共施設マネジメントの話でもありましたけれども、民間の力をかりると

いうお話の中で、議会の中に一、二名、大企業を御存じの方もいらっしゃるかと思いますが、そうした方に蒲郡市を売り込んでいただいて、民間の方で開発してもらおうというやり方もあるのではないかなと思っているのです。そういったことで竹島ベイパークは検討していただいてもいいのかなと思ひまして、今回こうやって取り上げさせていただきました。

次の質問に移らせていただきますが、イとして、ボートレース蒲郡周辺地区の環境状況について、お尋ねいたします。

◎尾崎弘章教育委員会事務長 ボートレース蒲郡はことしで開設 62 周年を迎えます。平成 11 年度からナイトレースを導入し、平成 18 年度からオールナイト開催となりました。ナイト開催となり 10 年以上経過しているわけですが、周辺地域において問題となるような事案は発生しておりません。何かとりわけこの周辺地域の環境で問題があるというようには考えておりません。

以上です。

◆新実祥悟議員 実際私もそのように聞きました。ことしの3月の予算審査特別委員会でボートレース事業部に伺ったのですが、警備員、青パト、防犯カメラの配置をしっかりとやられているということで、またボートレース事業部の方自身も外へ出ていただいて、たばこの吸い殻を捨ててくれているとか、そういったことをやっているのも少し拝見させていただく中で、本当に頑張ってくれているなど思っているのです。

そういう中で先ほどの御質問者が少し発言されたお話にも通じてくるのですが、ボートレース事業部が頑張っているからあの地区が安定しているのではないかというお話がありました。実際にはそうではなくて、各中学校区単位で青少年健全育成協議会というのがあって、そこで地域の皆さんが一生懸命努力している結果、塩津地区も安定していると思っているのです。それはどこも同じだと思うのです。どこの中学校区でも。逆に言えば、時々、安心ひろめーるというのが入ってくるのですが、塩津地区だけではないのです。いろいろなところから不審者情報というのは入ってくるのです。こういったのがありますと。ですから、これはある意味少し論理の飛躍ではないのかなと今思っているところなのです。

それともう1点ですが、その方が市長に質問されました。ボートレース蒲郡南東駐車場に小学校をつくるとしたらどうだ。ところが、あのすぐ近くに塩津小学校があるので。その質問者の言われたことは、もし何かの出来心でボートレースの舟券を買いに行ってしまうのではないかと、そういうことがあるのではないのという、そういう御心配をされました。

ところが、私が子供を育てるに当たって、子ども会の活動もやりましたし、PTA会長もやらせていただいた。そういう中でそのような話は一度も聞いたことがないのです。

本当にボートレース場のすぐ近くに小学校も中学校もあるので。その児童生徒がつい出来心で舟券を買いに行ってしまうなどということは一遍もないのです。

それだけではないです。事実としてはもう1点あります。塩津の町区の総代が、「いや、もう大丈夫ですよ」というようにお話された。実際これは事実なのです。なぜかという、ボートレース場の周辺の地域の協議会というのがあります。ボートレース事業部長は、わかると思いますが、あの中でどういう議論がされているかという、治安が物すごく悪いではないかとか、そのような話は全然出てこないのです。きょうは御答弁求めませんけれどもいいのです。私もそこに出させてもらっていますが、それ以外のお話は出てきます。でも、あの会議自体は今どのようになっているかという、早いときには25分で終わってしまう。この間でも40分です。それでもう残りの事業がどうなっているのとか、地域に対するそのような話だったわけですが、これはどういうことか。安定しているのです。ボートレース事業部の皆さんが頑張ってくれているというのはもちろんありますけれども、周辺地域の地元の皆さんも頑張っているのです。それから、小中学校の役員の皆さんも頑張っているのです。そういう中で、こういう地域がつくり出されているということなのです。それはあそこだけではなく蒲郡市全体でも同じことだと思っていますが、とりわけあそこだからいけないというような理由にはならない。ボートレースがいけないという理由にはならないと思っているわけです。

ウとして少し質問させていただきますが、私は今お尋ねしてきたことを積み上げさせていただくと、以前市長がボートレース蒲郡南東駐車場でいいではないかとおっしゃったことの市長の判断に瑕疵はないと思っています。ですから、ぜひこれはやっていたらいい結構だと、自信を持ってお勧めできるわけですが、市にお尋ねします。ウとして、新体育館の早期建設の必要性について、お尋ねいたします。

◎尾崎弘章教育委員会事務長 現在の体育館は耐震性が劣っているということは説明させていただいたとおりでございます。そのため、他の施設より先行して建てかえの検討を進めてきたものです。

しかし、建設後は何十年と使っていく施設でございますので、建設場所の選定につきましては、さまざまな御意見を参考に進めさせていただいていますが、建設地の選定に時間がかかっているということに対しましては大変心苦しく思っております。

現在、体育館の競技場、会議室やトレーニングジムのある管理棟を合わせて年間約10万人の方が利用されています。付き添いや応援の方を含めるともっと大勢になるということでございます。利用者の方に安心して使っていただくためにも、早期の建設を目指しまして努力をしてみたいと思っております。

以上です。



◆新実祥悟議員 1分でも早くつくってほしいのです。なぜか。やはり耐震性が不安だということで、今、多くの人に利用してもらっているわけなのです。こういう状況は早く解除して、これは大きな市民サービスでもあると思うのです。そういう意味で1分でも早くできる場所はどこかといったら、ポートルース蒲郡南東駐車場ですね、というように私はお伝えさせていただきます。

では、質問を進めさせていただきます。次に2として、市民会館と図書館のあり方についてです。

(1)市民会館の在り方についてお尋ねするのですが、まず、アとして利用状況についてお願いいたします。

◎尾崎弘章教育委員会事務長 蒲郡市民会館は指定管理者制度をとっております。指定管理者である株式会社ピーアンドピーと平成26年4月1日から平成31年3月31日まで5年間の管理運営業務の委託契約をしております。

利用状況でございますが、平成27年度の市民会館全体の利用状況は、利用件数が2,381件、入場者数が22万813人ございました。内訳といたしましては、大ホールが176件、入場者数は4万2,404人、中ホールが204件、3万6,601人、東ホールが206件、2万9,743人でした。また、会議室についてでございますが、大会議室が231件、1万5,111人、中会議室が349件、6,604人、東会議室が236件、5,245人でした。

続きまして、平成28年度の利用状況は、利用件数が2,372件、利用者数が24万9,285人。昨年度と比較して利用件数は0.4%の減少となっております。入場者数では12.9%の増加ございました。内訳といたしましては、大ホールが165件の5万6,691人、中ホールが214件の4万9,895人、東ホールが223件の2万8,435人、また会議室では、大会議室が235件の2万1,281人、中会議室が334件の9,760人、東会議室が249件の7,155人でした。

以上です。

◆新実祥悟議員 人数を聞いたのですが、やはり必要な施設だということは明らかだということで、あえてお尋ねいたしました。

イとして、大・中ホール棟維持の方針についてお尋ねするわけですが、これはどのように進めていこうとしているのか、お願いいたします。

◎壁谷勇司総務部長 本年3月に策定いたしました公共施設マネジメント実施計画では、施設用途別の基本的な考え方についてまとめられています。

その中では市民会館につきましては、大・中ホール棟、事務室・会議室棟及び東ホール棟に分けて述べられていますが、「大・中ホール棟は、耐震化を行った上で、長

期にわたって利用できるよう適切に維持していきます」とあり、長寿命維持の考え方が示されております。また、「ニーズに合わせた規模への適正化を実施することで、将来の維持管理費や運営費の削減を行う」とされていることから、適正化のために何らかの改修を行うことも考えられます。

もし、改修を行う際には、現在施設を利用している際に課題となっている点につきましても対策を検討し、ユニバーサルデザインの考え方も取り入れた利用者の利便性を向上するものにしてまいります。

◆新実祥悟議員 今もまたユニバーサルデザインというお話をいただきました。実際に今でも外から中に入る部分には何とか入れる。表からでも裏からでも何とか入れるわけですが、中と中を結ぶ場合という、舞台からフロアーのほうに行く場合ですとか、そういったのが非常に不都合になっている。そういったこともぜひお考えいただいて、改修する場合には大改修ということになるかと思いますが、そういったこともしっかりと御検討いただきたいと思います。

次にウとして、会議室棟のあり方について、こちらをお尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 市民会館の会議室棟のあり方についてですけれども、公共施設マネジメント実施計画において、平成 38 年度までの取り組みといたしましては、「事務室・会議室棟及び東ホール棟は、他の施設の機能を取り入れるなどの複合化に向けた検討を行い、検討結果に基づき整備事業を実施します」とされています。

会議室棟はリーディングプロジェクト、つまり多様な活動が便利に行える場の形成の核となる部分と考えており、複合化や多機能化によって施設の魅力を高め、多くの人に喜んでもらえる施設に再編したいと考えております。今年度は現状や課題の整理や施設再編の事業手法などについて、庁内での検討を行い、次年度以降に利用者や市民意見、ニーズの取り込みを行ってまいりたいと考えております。

◆新実祥悟議員 今、複合化というのでも検討されているということで伺いました。この後、また少し取り出して伺うわけですが、その前に(2)として、図書館の移設、新築について、お尋ねいたします。

また、これもアとして利用状況についてお願いいたします。

◎尾崎弘章教育委員会事務長 図書館でございますが、図書館につきましても市民会館と同様に指定管理者であるNPO法人ブックパートナーと平成 27 年4月1日から平成 32 年3月 31 日まで5年間の管理運営業務の委託契約をしております。

利用状況でございますが、平成 27 年度は4万 6,460 人の方に図書館との間に貸し出しの登録をしていただいております。入館者が32万 2,198 人、貸出冊数49万 1,164

冊でございました。平成 28 年度は登録者数 4 万 7,425 人、入館者が 31 万 1,825 人、貸出冊数が 47 万 7,293 冊でございました。

登録人数は前年よりふえておりますが、入館者、貸出冊数はともに減少となっております。

以上です。

◆新実祥悟議員 若干減少だというお話ですが、それでも非常に多くの方に使っている。

そういう中でお尋ねするわけですが、イとして、単独新設の可否についてです。複合化というお話もありますが単独新設というのは全く考えられないのかどうか、お尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 図書館につきましては、実施計画の中で、平成 38 年度までの取り組みといたしまして、「機能移転や他施設との複合化を検討し、検討結果に基づき整備を実施します」とあります。したがって、単独新設ではなく複合化を念頭に置いた整備について検討をしております。

また、耐震診断の結果、若干の強度不足が確認されていますので、早期に検討を行ってまいりたいと考えております。

◆新実祥悟議員 単独新設は難しいという中で、複合化という方針が示されました。

ウとしてですが、複合化でもいろいろな手法があるかと思うのです。そういう中で民間施設との併設、複合化の可能性についてお尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 図書館の整備では、民間施設の併設について報道されているのを目にすることがございます。公共施設マネジメント実施計画においても効率化の1つとして民間活力の活用がうたわれており、民間施設の併設によって町の魅力を高めたり、魅力のあるサービスにつながるのであれば、その可能性についても広く検討していきたいと考えております。

◆新実祥悟議員 時に反対という声も出てくる場合もあるかと思いますが、これは一考してみる価値はあると思っております。

もう1点、複合化の中で、エとして、市民会館会議室棟との併設についてはどのようにお考えですか。

◎壁谷勇司総務部長 図書館を市民会館の会議室棟と併設させるという案につきましては、より利便性の高い場所への図書館機能の移転や他施設との複合化という観

点から、先ほど御紹介いたしましたリーディングプロジェクトにおける蒲郡駅周辺に集約する機能の1つとして図書館の機能を移転し、市民会館の会議室棟と併設させるということも考えられるのではないかと思います。リーディングプロジェクトを検討する際には、そうした事業の実現可能性につきましても、あわせて検討させていただきたいと考えております。

◆新実祥悟議員 全てフリーハンドというわけではないにしても、ある程度間口を広げて御検討いただいているというのがわかりました。

(3)として、民間活力の導入の可能性についてお尋ねいたします。これを時々、私は何うわけですが、アとして、PFIやPPPの利点、難点についてです。本来、民間活力というのは積極的にお願いしていくべきものではないのかなと思っているのですが、市当局としてはどのようにお考えになっているか、お尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 公共サービスの提供に民間が参画するPPPや、PPPの代表的な手法の一つであり、公共施設の設計、建設、改修、更新や維持管理、運営などをまとめて実施するPFIなどの手法は、国においても公的負担の抑制につながることを前提に、地域の実情を踏まえ、導入を優先的に検討することが必要であるとされております。

具体的には、人口20万人以上の地方公共団体におきましては、平成28年度末までにPPP、PFIの優先的検討規程を策定するよう要請されており、これ以外の地方公共団体であっても同様の取り組みを行うことが望ましいとされております。

PFIのメリットにつきましては、一般的には、低廉かつ良質な公共サービスの提供、財政支出の平準化、民間の事業機会の拡大などが挙げられており、デメリットといたしましては、準備に時間がかかり手続が煩雑、PFIにかなう事業や対応できる企業が限定される、中途での事業の破たん、将来世代への負担や財政硬直化の懸念などが考えられます。

◆新実祥悟議員 難点も幾つか述べていただきましたが、そういったものがあるにしても、やはり国でそういう指針を出されているということで、積極的に前向きに検討していただければありがたいかなと思います。

イとして、市民会館や図書館への導入の可能性についてお尋ねいたします。

◎壁谷勇司総務部長 市民会館や図書館を整備する場合に、PFIやPPPなどの方式を導入する可能性があるかどうかにつきましては、公共施設マネジメント実施計画において、「PFIの手法などの有効性が確認できる場合は、積極的にそれらの仕組みの活用を進めます」とされていること、また、国から地方公共団体に要請されている趣

旨を踏まえ、これらの手法の導入の可能性については検討してまいりたいと思っております。実際にこうした手法を用いて施設整備を進めるかどうかにつきましては、検討の結果や事業の主体となる民間事業者の有無等についても見きわめた上で判断してまいりたいと考えております。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。国もそういう方針を出されているということで、実際、蒲郡市はそれに強制されるわけではないというお話も伺いましたが、そうではあっても御検討をしっかりといただければと思います。

最後になりますが、新体育館は早く建設していただかないと、やはり財政的に大丈夫ですよというお話もありましたけれども、でも次の施設が待っているわけですので、これはやはり新体育館は1分でも1秒でも早く建てる、そういう方向でやっていただきたい。また、建設する場所もすばっと決めていただきたいなと思います。

繰り返しますが、私は市長に瑕疵はないと思っておりますので、ぜひ決断していただきますようお願い申し上げます。私の一般質問とさせていただきます。どうもありがとうございました。